

## 12月議会活動報告



いながき

# 新たな年 心機一転

## —任期最後の議会 変わらぬ姿勢で—



いとう

### 警報発令 吉川のインフルエンザ続く

インフルエンザが流行期に。コロナ感染症は5月8日に扱いがインフルエンザ並みの5類に。コロナ禍が一段落する一方で10月中旬から全国的にインフルエンザ流行の報告。吉川でも各学校で学級閉鎖が相次ぎ12月22日現在小学校で（41学級）中学校で（22学級）計63学級の閉鎖報告。概ね3日間。この間多くのクラスではオンライン授業も実施。症状はいきなりの高熱。咳などの飛沫を通じて感染するとの事。マスク着用や手洗い等の予防策が有効。冬休み明けに広がるのではと心配する声も。ご留意の上よき新年をお迎えてください。

### 最後まで変わらぬ姿勢で

任期最後の市議会は11月30日から12月15日までの日程で。提出議案は吉川市少年センターの名称を教育センターに変更する条例等22件。

さらに歳入歳出に4億3545万7千円を加えた補正予算案の追加提出も。この内容は物価高騰で家計への影響が大きい住民税非課税世帯に対し1世帯当たり7万円を給付するもの。国策で吉川では約6千世帯が対象です。

### コロナで明け暮れたこの4年間

未知のウイルス。感染の恐怖。コロナ禍は一気に全国に全世界に。当初は予防のマスクも消毒液も不足。検査も隔離も診療も入院もままならない状態に。3密の回避。学校は一斉休校。仕事はリモートで。休日夜間の営業自粛や規制も。

異常で異例の取り組みや日々の連続で

した。ワクチンの開発・接種。その一方でコロナはしぶとく変異を繰り返し、第8波に。

### 救急車出動は最多の 5,118件に

吉川の救急出動は、毎年20%の増加で最多を更新。令和4年5,118件に。

コロナ出動は1,454件で陽性は400件。病院への搬送困難な事例は817件にも。



最前線の消防関係者の感染率は50%前後にも。

医師、看護師。介護士等各種の施設を支える人々。スーパー、コンビニ。バス、タクシー、物流の運送やごみの収集。先生方も公務に携わる人もみんなが力を合わせ、耐えて乗り切ってきました。

新しい年、お互いにエールを交換し「心機一転」で元気にスタートしましょう。

(いとう記)

#### いながき 茂行

吉川市栄町782番地1C - 1101  
TEL 983 -1628  
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com  
ホームページ <http://www.inagaki-s.com>

#### いとう 正勝

吉川市きよみ野2 - 8 - 2  
TEL・FAX 983 -1117  
Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com

# 吉川市を創る時

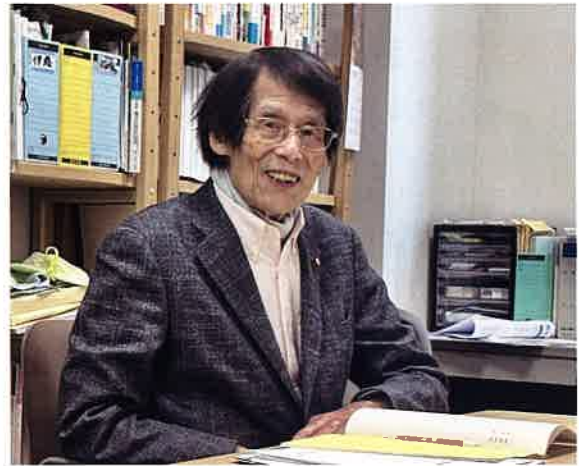
## 最も身近な行政は吉川市です

私たちは、日々の生活そして生まれる前から人生が終わるまで、基礎自治体である吉川市のお世話になります。「ゆりかごから墓場まで」という言葉がありますが、市とは「母子健康手帳から灰になるまで」関係が続きます。

顔を洗う・トイレを使う・炊事・洗濯・お風呂の水は【上水道】。使い終わった水は【下水道】へ流されます。ゴミの収集（市）と焼却【近隣5市1町・東埼玉資源環境組合】。消防・救急車【吉川松伏消防組合】。保育所・小学校・中学校、おあしす・図書館・公民館・体育館、公園・道路など。これらは、私たちが納めた税金でつぐられ管理運営されています。



吉川市議会議場



伊藤正勝

## 議会って何 議員は何をする人

行政のチェック機関としての役割を果たすのが議会・議員で、最も大切な仕事は、予算・決算のチェックです。

お金の使い道には、人・物・金が関与します。市が行う「事業」の必要性・有効性・優先順位などを検証し、これらが「最小の費用で最大の効果が得られる」ように、市に求めて行くことです。時には、修正や執行を認めない事もあります。

### 見つめることは 愛すること

吉川の中学校で学級崩壊。3学期公開授業の折りに仲間の議員とふたりで視察に。保護者の姿は見当たらず静かな校内。2年生の数学の授業を拝見。目を疑う光景に出会った。窓際で女子生徒が鏡を手にメイキヤップ。目を転じると座席の後ろで5、6人の男子が車座でトランプに興じていた。

小学校でも授業中に廊下を歩いたり騒いだりする場面を目撃。議会で取り上げ、報告でも紹介し改善の必要を訴えた。

その数日後、校長室でPTAの幹部数人に囲まれ、涙を浮かべての抗議を受けた。

学校の恥を表に出し皆がみじめな思いでいる。どういふつもりなのか。

これは十数年前の出来事。

どうすればいいのか。別の校長から「簡単ですよ」との言葉が届いた。公開の授業等に大勢の保護者が出掛ける。地域の人々も含め皆で子どもたちをしっかりと見つめることです。「見つめることは愛すること」その言葉を市民のみなさんにも紹介しました。

コロナ禍が明けたこの秋、市内の小中学校で一齐に公開の授業や文化祭が開催された。どこにも大勢の人が集い温かい眼差しと気持ちたちが交差し漂っていました。

1月28日は市議会議員選挙。地域を見つめ投票に出掛けて頂ければ、議会も市政も引き締まり活気が出ることとなります。

# 今、未来の基

## 「議会」が変われば「市政」が変わる

「議会」と「市長」との関係は、車の「両輪」に例えられることがあります但实际上には「両輪」ではありません。

「市長」は予算（案）を編成・提出し、予算を執行する権限があります。勿論、「議会」で予算が認められなければ、執行側は1円たりとも使うことは出来ません。

国会と違い、地方議会は二元代表制です。本来、与党・野党はありません。しかし、市長与党のような動きをするグループも

あり、議会が本来のチェック機関としての役割を果たせず、追認機関になっているのが全国的な状況です。

行政の「ムリ・ムダ・ムラ」を無くし、市民が必要とし求める政策や事業にお金を使えば、「幸福実感」は向上し、住んでよかったと実感できる「まち」になります。

その為に、議会・議員は本来の役割を果たす集団にならなければなりません。

## 「まちづくり」の第1歩は「投票」することから



稲垣茂行

政治への不信や無関心が広がっています。4年前の吉川市議会議員選挙での投票率は、39.28%。今年12月初めに行われた埼玉県上尾市と朝霞市議会議員選挙では、上尾市が34.1%、朝霞市は34.6%でした。

住んでよかった・これからも住み続けたいと実感できる「まちづくり」を進めて行くには、「市民参加」としっかりと「仕事をする議員」を選ぶことが必要です。

### サラリーマン生活と 議員生活4期16年

上野駅前にてパートを創る私鉄の「百貨店準備室」に、1期生として採用され、昭和45年4月に入社。開店までの2年余、開店準備業務に従事しました。刺激的でやりがいのある毎日でした。開店から閉店までの15年、魅力的な人達と難しい課題に取り組み、多くを学びました。昭和60年、首都圏を中心に30数店舗を展開し、5000億円を売り上げていたチェーンストアに入社。ファッションや雑貨を中心に扱う会社でしたが、食品に参入することになりました。翌年、本社の食品部門に配属されました。翌年、本社の食品売り場開設の仕事に就き、最後は食品部門を支える部署での勤務でした。定年を迎える平成20年1月、吉川市議会議員選挙に立候補し当選。以来、生活者の視点で市民とともに活動をしてきました。「フロロレーション」の推進阻止・乳幼児や子ども達の予防接種問題・おあしす「はーとふるぼっと」の存続や跡地利活用等。また、安売りスーパーによる騒音・悪臭や小松川工専地区への産廃業者進出では、近隣住民に寄り添った解決を図りました。市政への提言で大きな成果を上げたのは、債権管理の一元化。納税率をアップし、市政の安定化を推進しました。おあしす改修予算8700万円は市民の理解を得られないと減額修正。改めて議会の存在と役割を示しました。

(いながき)

# 未来を築くために 今取り組むこと！ —あなたの選択は、優先すべきことは—

これは私たちが12月議会等で提案、提起した内容の要約です

## おいしい給食。給食費無償化を一步前進

期間や対象を限定することも。夏休み中の学童保育への給食。市民向けの試食会の拡充も。

## 認知症に向き合うまちづくり

地域包括ケアシステムの拡充。住民全員が認知症のサポーターに。  
フレール予防のなまらん体操。みんなが安心して暮らしやすいまちに。

## 旧庁舎跡地の「福祉の拠点づくり」は慎重に

地域や利用者の声にもっと耳を傾け、費用対効果等の検証を。  
ハードより人々のつながり、子育て・障がい者支援を。



## 輝く庁舎・吉川美南駅・吉川中学校に

東口地区開発地には総合病院が進出へ。東西を結ぶ跨線橋の改修。バスルートの新設も。  
美南駅を中心に日本一魅力的なまちを目指し総仕上げに。  
市役所会議室、議場を含め公共施設、公園、学校等も積極的に開放。

## 近隣自治体との連携と協力。新たな飛躍へのチャンスに

吉川橋の完成。三郷流山橋の開通。東埼玉道路延伸。常磐道のフルインターン化。  
江戸川・中川・大場川は大改修。  
相互の交流、情報の交換、共同の事業展開で更なる発展を。

## 災害に負けない吉川に

「溜めて流す」を基本に各地区ごとの実状に沿った防災計画づくりと役立つ防災訓練、  
在宅避難も。吉川駅北口、南中学校周辺の冠水対策。  
水田利用の遊水地を含め施策の柱に位置付け推進を。

### いながき茂行

1948年 東京都杉並区荻窪に生まれる  
1966年 國學院大学久我山高校卒業  
1970年 國學院大学法学部卒業  
1970年 (株)京成百貨店入社  
1985年 (株)丸井入社 2008年退職  
2008年 吉川市議会議員選挙立候補・当選  
2012年・16年・20年 連続当選  
【家族】 妻と娘2人・息子の5人家族  
【趣味】 散歩・山歩き・家庭菜園・読書  
【資格】 消費者生活アドバイザー、計量士、教員免許

### いとう正勝

中国東北部(旧満州)生まれ  
早稲田大学政治経済学部卒業  
NHK入社  
東京・政治部担当デスク  
大阪・関西統括報道デスク  
福岡・九州統括放送部長 長崎局長  
放送番組向上協議会専務理事(NHK・民放連)  
吉川市長選2回挑戦 市議会議員当選(6期)  
【たのしみ】 合唱・独唱 新聞・雑誌・新刊の乱読  
※特養でワイフとデート 4000日余り。野辺送り

### 編集後記

P T A 連合会会長の時、吉川市の「区長制度」について話があった、と電話があり伊藤宅へ伺いました。当時、条例により地域ごとに「区長」が選ばれ、報酬が出されていました。

世帯数などの違いによりですが、多い人は年間数百万円が、区長の個人口座に振り込まれ、その使途についての報告義務もありませんでした。地域住民のために使うお金が、そのような形で支出されるのはおかしく、きちんとした「自治会」に改め使途についても公開されるべきと意見が一致。

伊藤さんを中心に数人の方々とともに「区長制度廃止運動」に参加。その後、現職市長が急死。市長候補に伊藤さんを擁立するも、落選。私にとつて、市民運動や選挙に係わった初めての体験でした。

何気ない話の中で、「認知症になつて、ウロウロしている時、伊藤さんの家はこつちですよ」と近所の人が増えて行つてくれる。そんなまことにしたい、と言った。

この人は、本物だと思つた。同一会派で4期16年、一緒にやつてみて思うこと。

細かなことは気にせず、自分勝手。だれかれ構わず気軽に会いに行くと、政治記者魂は変わりません。

おかしいのは、「おかしい」と言い、ウソやごまかし、権力の乱用を本気で怒る姿は、吉川市議会でも最も「若い」人です。疲れます。

(いながき)